



## 「京都御苑歴史研究会」の活動について



平成 20 年 12 月 7 日に開催された「京都御苑歴史散策の集い」(主催: 環境省京都御苑管理事務所) には、明治天皇の「産屋」が戦後はじめて公開されるという話題性も加わり、3,000 人近いお客様が京都御苑を訪れました。当日は、都草の会員約 50 名が苑内すべての駒札に 2 名ずつ立ってボランティアガイドを行い、参加者から好評を博しました。以来、都草として京都御苑におけるボランティアガイドの継続的な実施を考えてきましたが、このたび会員や各界の方々のご賛同の声にも押され、平成 25 年度の NPO 法人・都草の事業として実施することになりました。昨年、苑内ガイド実施の構想を京都御苑の歴史に詳しい学識者の方々に相談したところ、「趣旨に

ついては大いに賛成しますが、その前に御苑の歴史を深く学んで下さい。」というご指導をいただきました。そこで京都御苑ボランティアガイドの養成を目指し、また会員の勉強会の場として平成 24 年 10 月 31 日に「京都御苑歴史研究会」を発足させました。現在、研究会のメンバーは約 60 名で、そのうち半数がボランティアガイドを希望されています。メンバーにはそれぞれ与えられたテーマについて研究発表をしていただき、ガイド希望者は研究会と平行して「ガイド研修」を行う一方で、ガイドマニュアルや京都御苑歴史散策マップを作成していただいています。また京都御苑の歴史・文化は基より、植物や野鳥・蝶・きのこなどの自然についても、それぞれの専門家に教えていただきながら、さまざまな魅力を発信していきたいと考えています。(理事長 坂本孝志)

## 京都御苑歴史研究会ガイド研修会に参加して



初ガイド体験、「こんなはずでは……。」現地ガイド研修においてまず感じたことです。会員同士の練習とはいえガイドは初めての体験でした。ガイドなどマニュアルを覚えてしゃべればいいのだと高を括っていました。しかし現実には声は上ずる、覚えたことも口から出てこない、散々なものでした。全く自分のものになっていなかったのです。当日、中江理事よりアドバイスがありました。「ガイドをする時は、誰よりも自分が一番よく知っているのだという自信を持ちなさい。」と。確かに私は勉強不足でした。

京都御苑は平安時代から現代までと歴史も長く、天皇、公家、幕末事件などテーマも多岐にわたっています。いくら時間があっても足りないくらいです。その点、都草はあらゆる専門知識をお持ちの方が沢山いらっしゃいますので、わからない事にぶつかったら教を頂く事ができます。又、毎月開催される勉強会もとても参考になります。それにしてもベテランの方のガイドは、なんといい味を出されるのでしょうか。それは知識や経験の多さからでしょうか。他にも何かがあるように思います。その何かははっきりわからないでいます。とにかく今はその答えを追い求めながら、親しみのあるおもてなしができるように研鑽を積みしたいと思います。ご指導宜しくお願いたします。(会員 植村多賀子)

## ◆◇ 「大船鉦復興シンポジウム」～大船鉦と都草との関わり～ ◇◆



平成 25 年 3 月 16 日、立命館大学朱雀キャンパスホールにおいて、シンポジウム「大船鉦の復興～祇園祭山鉦巡行の今日と明日～」(主催：明日の京都 文化遺産プラットフォーム)が開催されました。

幕末の「禁門の変」で焼失した大船鉦の 150 年振りの復興と、山鉦巡行の前祭・後祭の分離(7 月 17 日と 24 日)の話題を中心に、講演会とパネルディスカッションが行われました。登壇者は、祇園祭山鉦連合会理事長の吉田孝次郎氏をはじめ 4 名で、それぞれの方が祇園祭への熱い思いを語られました。ちなみに、坂本がコーディネーターを務めさせていただきました。

都草は、大船鉦笛方の松村氏(都草会員)の紹介で、平成 18 年の大船鉦(居祭り)の「飾り席」復活の年から毎年、粽授与などの祭事のお手伝いをしてきました。今年も大船鉦保存会様から協力のご要請があり、小松理事を始め、のべ 45 名の会員および家族や知人が浴衣を着て参加しました。来年の祇園祭には大船鉦が都大路にその姿を 150 年ぶりに現しますが、鉦復興までの経緯の中で、僅かでもお手伝いできたことは都草の誇りです。

(理事長 坂本孝志)

## ◆◇ 都草文化交流会 ◇◆

## 梨木神社史跡見学と能楽に参加して



入会 2 ヶ月あまりの私が、能という言葉に惹かれて初めて文化交流会に参加しました。史跡見学の時には、都草会員の投げかけるどんな質問に対しても、別の会員が即座に答えるという皆様の知識の広さに感心させられました。シテ方観世流吉田氏の能に対する歴史や楽しみ方の説明が非常に分かりやすく、仕舞での顔の動きや床を踏み鳴らす音には迫力と緊張感を感じました。そして高価な西陣織の衣装を演目ごとに自費で揃えられるとお聞きして、伝統文化の伝承も大変な事だ

と思いました。また体験のため舞台上に上がった外国人参加者も、日本文化を理解する戦力になってくれることでしょう。梨木神社祭神の三条実万・実美親子は学問の神様。小生もあやかって少しでも早く皆様に近づけるよう頑張らなければと感じた有意義な半日でした。(会員 福岡 亮)

私がかねてから能・狂言に興味があり、胸ときめく想いで参加させて頂きました。能楽師の吉田氏が四演目を演じられ、能舞台と私の席が接近していた為、音・声・舞が迫力満点で興奮しっぱなしでした。吉田氏の大変分かりやすい解説により能というものがより身近なものとなりました。豪華な美しい能衣装に心奪われると共に、まるで生きているような面の表情に惹き込まれました。外国の方の能衣装の着付け体験は、さぞかしよい思い出になったことでしょう。最後に、お馴染みの「高砂」を会場の皆様と一緒にお腹の底から声を出して謡い、大いに盛り上がりました。650 年も続いてきた能など、古典芸能の存続の重要性を強く感じた一日となりました。

(会員 前田裕美子)